

月 日 () 5年 組 名前

今日のめあて

なぜ日本では自然災害が起こりやすいのだろう。

① 日本で水害や土砂災害が多いのはなぜだろう？

ひとりで考えてみよう	グループで話し合ってみよう
<ul style="list-style-type: none"> ○世界と比較して、雨の量が多いから ○台風の通り道だから ○山地が多いから ○日本の川は流れが急だから 	<ul style="list-style-type: none"> ○海に囲まれていて、海水による水害（高潮・津波）もおこることがあるから ○日本のまわりは火山が多く、地震の揺れがきっかけとなって地面が崩れることがある
<ul style="list-style-type: none"> ○台風がたくさん来て、その台風のせいでたくさんの雨が降ったり、地震が起きたりするから。 ○梅雨があるから ○雨が降って土が軟らかくなるから 	<ul style="list-style-type: none"> ○川が多いから ○プレートの境目が多いから ○海が日本を囲んでいるから ○地震が多いから

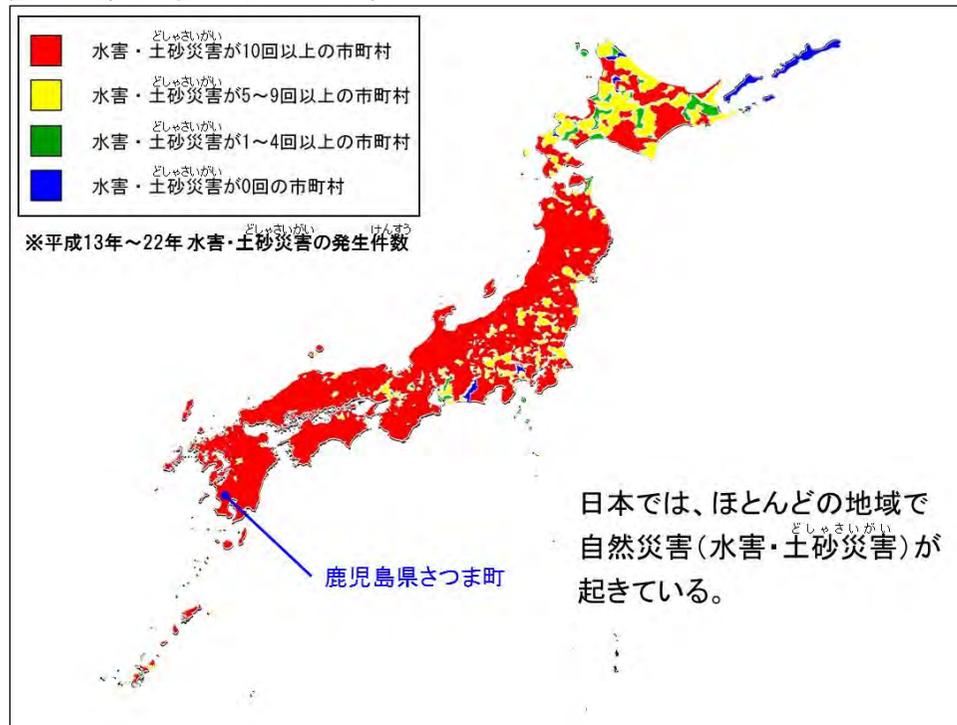
今日のまとめ

日本は、雨が多い気候や山が多く川が急流となる地形、また、海に囲まれていることや火山が多いことなどのさまざまな理由により自然災害が起こりやすい。

自然災害が毎年発生しているのに、被害が少ないのはなぜだろう？

- いろいろな施設が整備されたり、消防団などがあるから
- 対策がたくさんあるから ○避難訓練などもあるから ○素早く避難しているから
- 世界的に人口が少ないから（※世界の人口は72億4,400万人、日本は1億2,700万人（各2014推計値）で割合は1.8%程度と土地の占有率に比較すると高い割合となる）

■水害・土砂災害の発生回数



■平成26年8月の大雨の影響で洪水や土砂災害が各地で発生しました



平成26年8月に京都府で発生した洪水

京都府以外でも、平成26年は、高知県（台風11号・12号）や徳島県（台風12号）、静岡県（台風18号）などで洪水が発生しています。



平成26年8月に広島県で発生した土砂災害

広島県以外でも、平成26年は、長野県（台風8号）や山口県（台風12号）などで土砂災害が発生しています。

月 日() 5年 組 名前

今日のめあて

自然災害をふせぐために、どんな取り組みが行われているのだろうか

■ 右側の取り組みを、似ているものどうしにわけてみよう！

取り組み	「似ている取り組み」の名前
<p>【ひなん場所や危険か所を事前に知らせる】</p> <p>ための取り組み</p>	<p>洪水ハザードマップ ひ難場所をしめす看板 土砂災害ハザードマップ まるごとまちごとハザードマップ</p>
<p>【防災情報を早く正確に伝える】</p> <p>ための取り組み</p>	<p>土砂災害情報 かん視カメラ 防災無線</p>
<p>【災害を防ぐ】</p> <p>ための取り組み</p>	<p>がけくずれ工事 堤防 分水路</p>

■ さつま町内で進められている災害を防ぐさまざまな取り組み

① 土砂災害情報

大雨が降って土砂災害が起こるおそれがあるときに、ひ難かん告やひ難指示などの情報を住民に知らせるため、さつま町が防災行政無線や広報車などから呼びかけます。

② がけくずれ工事

くずれた土砂の一部を取り除き、がけの形を整えたり、セメントで表面を固めたりする工事を、鹿児島県やさつま町が行っています。

③ かん視カメラ

災害を防ぐために、国土交通省が川内川にかん視カメラを設置して、つねに川の様子を観察し、災害が起こりそうなどときには、さつま町に知らせます。

④ 防災無線

住民へ防災情報を知らせるための無線通信システムです。さつま町が各家庭に設置しています。

⑤ 堤防

大雨が降っても川があふれないようにするため、川の左右に堤防を作る工事を国土交通省が行っています。

⑥ こう水ハザードマップ

しん水ひ害が起こりそうな場所やひ難場所、ひ難するための道などが分かるように、さつま町が配っています。

⑦ 分水路

川の水が増えたときに、水が流れる道を増やし、川の水をあふれにくくする工事を国土交通省が行っています。

⑧ ひ難場所をしめす看板

こう水のとくにすみやかにひ難できるように、日頃からひ難場所がわかるような看板をさつま町が設置しています。

⑨ 土砂災害ハザードマップ

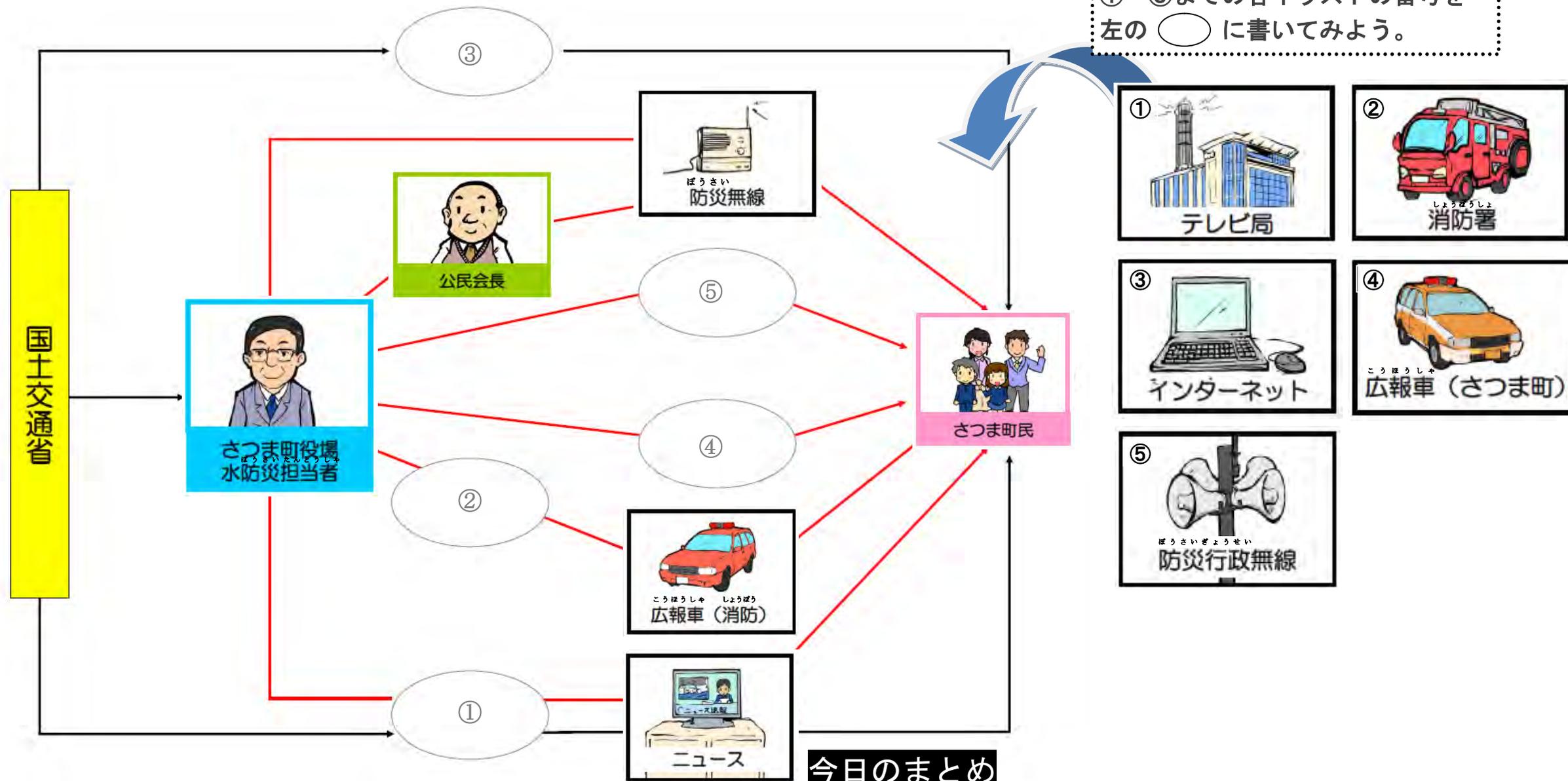
長雨や集中豪雨の時に、がけくずれや地すべりなどに注意・警戒すべき危険箇所がわかるように、さつま町が配っています。

⑩ まるごとまちごとハザードマップ

「過去の大きな水害時にどこまで水に浸かったか」などの情報をわかりやすく「まちなか」に表示する取り組みを国土交通省が進めています。

② 災害が起こりそうなときに、どんな風に情報が伝えられてくるのか考えてみよう

どのイラストが、どこに入ったら
情報が伝わるかな？
①～⑤までの各イラストの番号を
左の○に書いてみよう。



今日のまとめ

国・都道府県・市町村は自然災害による災害を減らすための「事前に知らせる」,
「伝える」,「防ぐ」取り組みをしています。
これを「公助」と言います。

月 日() 5年 組 名前

今日のめあて

災害を防ぐために、地域ではどんな取り組みが工夫されているのだろうか。

① 釜石市の子どもたちが逃げる事ができたのはなぜだろう？

- 実際に帰っている途中などにサイレンをならし訓練をしていたから実践できた。
- 学校で訓練したことを実際にやる事ができたのと自分で判断する事ができたから。
- 自分の身は自分で守る。 ○自分を守る一人でも生きのびろと言われ、そのとおりにしたから。
- 家で親を待たずに、自分で避難所までいったから。
- 避難訓練とかを自分で考えてするなど工夫をして避難訓練をしていたから。
- 学校での避難訓練で練習したことをいかして、高い所に避難したから。

② さつま町で多くの人の救助が必要となったのはなぜだろう？

- いつも通りだろうと思いきみすぎたから。
- 何度も避難をよびかけたのにそれに応じなくて避難しなかったから。
- 避難指示がでているのにすぐににげず、家に帰ったりした人がいたから。
- すぐ逃げずに、大丈夫だろうと家に残ったりしたから。
- 避難の訓練をしていなかったから。
- 普段見回りをせずに、お年寄りがどこに何人いるかが分かっていなかったから。
- お父さんなどを待ってから、一緒に避難したから。
- 避難をよびかけても、応じてもらえなかったから。
- 川の水位を見てあまり危機感を感じなかったから。
- 浸水していることに気づかなかったり、大丈夫だなと思っていたから。
- 川の水位があまりにも高くて、恐怖のあまり、危機感を感じなかった

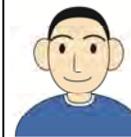
今日のまとめ

地域で共に助け合う「共助」や、自分の身を自分で守る「自助」のために、避難訓練や学習などの取り組みが進められている。

自分たちでできることやこれから気をつけたいと思うことを書いてみよう！

- 自分の家で避難訓練の練習をする。 ○予め避難場所や危ない場所を調べておく。
- 自分の命を守るために1人で逃げる。 ○自分で今どうなってるか調べて避難したい。
- 避難する時に必要な物や道具をそろえておく。 ○危ない所へは近づかない。
- 自分で落ちついて避難できるように、避難訓練などをまじめにする。
- 自分の身は自分で守ったり、互いに助けあったりしたい。お父さん等が避難しなかったら一緒に避難する。

平成23年3月11日の東日本大震災のとき、岩手県の釜石市では、約3千人の小中学生が素早い避難を行い、大津波を生きぬきました。



自分の身は自分で守るように言われてきた。自分一人でも生き延びろと言われていたので、お父さん・お母さんを待つのではなく、一人で逃げた。



何回も避難訓練で練習してきた。「釜石の“奇跡”」ではない。

平成18年7月の水害のとき、さつま町では、939戸の家が浸水し、237名の方が救助されました。



平成18年7月の豪雨のときに水害でひなんした人の話

地域の方



あの日は、私は虎居で仕事でした。家もひなん指示がでていと電話があり急いで帰りました。でも、川の水位を見てあまり危機感がなかったのをおぼえています。

地域の方



家の前の田んぼは、大雨の時にときどき浸水することがあったので、あまり心配していなかったのですが、こんなのは初めてです。公民会長さんから「危険ですよ。」と声をかけてもらって、にげようとしたときには、既に川内川支流の川の水があふれていて、家の前は川のように水が流れていました。何も持ち出せず、必死でにげたのをおぼえています。

地域の方



玄関の前を水が流れ出し、近くで働く主人に電話をして帰ってきてもらい、一緒ににげました。ほんのわずかのあいだに、家の中の家具はぶかぶかうきはじめていました。主人とかばん一つ、車も使えず、きのみきのまま近くの高台にひなんしました。友人やボランティアの方々など多くの方に助けられました。特に、鶴田中学校野球部の子どもさんが床下で懸命に泥だし作業をやる姿に胸がいっぱいになり被災の心が癒されました。みなさんに助けられたという思いが強いですね。

平成18年7月の豪雨のときに水害で救助した人の話

さつま町消防団西部方面隊長



こんな水位は初めてですよ。そのせいか、何度もひなんをよびかけてもおうじてもらえませんでした。また、体が不自由で動けない高齢者を救助したときに、日頃の見まわり活動が必要と感じました。

さつま町消防団虎居分団団員



出動要請があって現地につくと、民家のすぐ近くに水がせまってきます。急いでひなんするように強くよびかけました。あわてて高齢者を背負ってひなん所まで運び、おりかえして他の住民の救助にかけつけたときは、腰まで浸水していたためすぐには近づけませんでした。仲間のひとは急流に流され命の危険にさらされました。携帯電話も水没したため連絡がとれず、どこに住民がとり残されているのか把握するのに苦労しました。

今日のめあて

災害に備えて私たちにできることはなんだろうか。

① 地図から自分の家をさがして、自宅のまわりや通学路で気をつけな いとといけない災害やひなん所をさがしてみよう。

- 自分の家を見つけたら、そこに◎印を書いてみよう。
- 自宅のまわりや通学路では、どんな災害に気をつけることが大切だろう？
 - 土砂災害 浸水
 - 木などがある場所に近づかない
- 自宅から一番近いひなん所を探して、名前を書いてみよう。

■自分の家をさがして地図(別紙)に書き込んでみよう！



さつま町 ぼうさい 防災マップ



どしゃまいがい 土砂災害ハザードマップ

② 災害が起きそうな時には、どんな情報に注意して、何を持って行く とよいだろう？ これまでの授業を思い出して書いてみよう。

災害の情報は何から集めるとよいだろう？	ひなんの時に持っていくものとして、何を準備しておけばよいだろう？
<p>ひとりで考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テレビやラジオ ○携帯電話 ○インターネット ○「早よ見やん川内川」などの河川の水位情報 ○公民館の放送 ○防災無線や広報車、サイレンなどによるお知らせ 	<p>ひとりで考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水や食料, 缶切り ○防災ずきん, ヘルメット ○衣服, タオル ○医薬品, おむつ ○ラジオ, 携帯電話, 充電器 ○懐中電灯, 乾電池 ○マッチ, ライター, ろうそく, ナイフ ○ロープ ○ティッシュペーパー・トイレットペーパー ○筆記用具 ○貴重品 (お金・通帳・印鑑)
<p>グループで話し合ってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新聞 (※翌日の情報となり、すぐの対応には活用しにくいことが課題) ○目で見える (※見る場所によるが、川に近づいての確認は、危険がより高くなることが課題) 	<p>グループで話し合ってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○雨靴 (※理科でも学習したとおり、歩きやすい服装としては運動靴が推奨される)

今日のまとめ

自然災害の危険から身を守るためには、日ごろから備えておくことが大切です。また、ひなん勧告などが発表されたら早くひなんすることが大切です。